スーパーマーケット販売統計調査資料

2018 年 6 月実績 速報版（パネル 270）
5 月実績 確報版（パネル 270）

（2018 年 7 月 20 日公表）

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に取り扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016 年 4 月実績よりパネル対象企業変更（275 社→270 社）

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版：毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版：速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店：前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店：前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮 3 部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インストアベーカーリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品			日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
	その他			テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業（DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等）

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014 年 4 月実績よりエリア区分を 8 地方区分による 6 地方に変更

一般社団法人　日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人　新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2018年7月20日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2018年6月実績　速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
総売上高	87,694,965	100.0%	101.4%	100.2%
食品合計	78,845,901	89.9%	101.8%	100.4%
生鮮３部門合計	29,181,289	33.3%	101.0%	99.6%
青果	11,949,424	13.6%	100.4%	99.0%
水産	7,266,381	8.3%	101.3%	99.9%
畜産	9,965,484	11.4%	101.6%	100.0%
惣菜	8,766,196	10.0%	103.1%	101.0%
日配	17,224,802	19.6%	101.2%	100.2%
一般食品	23,673,615	27.0%	102.6%	101.3%
非食品	6,539,712	7.5%	99.1%	98.7%
その他	2,309,398	2.6%	97.3%	98.1%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	12,126,847	43	102.4%	100.2%
関東地方	32,347,329	73	102.1%	101.0%
中部地方	10,668,787	53	101.0%	100.4%
近畿地方	19,009,190	44	99.9%	99.4%
中国・四国地方	8,670,365	34	101.3%	98.5%
九州・沖縄地方	4,872,447	23	101.4%	100.2%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	631,238	44	96.0%	96.7%
4～10店舗	3,876,255	73	101.6%	99.6%
11～25店舗	9,991,237	64	99.4%	99.1%
26～50店舗	15,520,334	45	100.9%	99.4%
51店舗以上	57,675,900	44	101.9%	100.6%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	85,586,428
総店舗数（店舗）	7,923	店舗平均月商（万円）	11,068
総売場面積（㎡）	13,127,881	売場１㎡あたり売上高（万円）	6.7

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

2018年7月20日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2018年5月実績　確報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
総売上高	89,113,332	100.0%	99.5%	98.5%
食品合計	80,532,102	90.4%	99.9%	98.7%
生鮮３部門合計	30,286,770	34.0%	99.8%	98.6%
青果	12,212,708	13.7%	98.8%	97.6%
水産	7,665,242	8.6%	99.5%	98.3%
畜産	10,408,820	11.7%	101.4%	99.9%
惣菜	9,100,018	10.2%	101.2%	99.3%
日配	17,570,566	19.7%	100.0%	99.1%
一般食品	23,574,749	26.5%	99.4%	98.3%
非食品	6,155,275	6.9%	96.0%	96.0%
その他	2,426,005	2.7%	95.9%	96.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	12,436,672	43	99.1%	97.4%
関東地方	32,873,342	73	100.2%	99.2%
中部地方	10,983,177	53	99.7%	98.9%
近畿地方	18,984,319	44	98.9%	98.6%
中国・四国地方	8,948,766	34	99.2%	97.3%
九州・沖縄地方	4,887,055	23	98.2%	97.8%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	651,563	44	94.1%	94.6%
4～10店舗	3,836,436	73	98.7%	97.1%
11～25店舗	10,252,842	64	98.0%	97.6%
26～50店舗	15,903,315	45	98.8%	98.2%
51店舗以上	58,469,177	44	100.0%	98.8%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	86,999,634
総店舗数（店舗）	7,917	店舗平均月商（万円）	11,256
総売場面積（㎡）	13,116,534	売場１㎡あたり売上高（万円）	6.8

※売上高は税抜金額
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

2018年6月エリア別気候状況

1.　6月気温の特徴：全国的に気温は高かった

上旬：北・東日本と沖縄・奄美でかなり高く、西日本で高かった。□

中旬：北・東・西日本で低く、沖縄・奄美では平年並だった。□

下旬：東日本でかなり高く、北・西日本と沖縄・奄美で高かった。□

2017年6月との比較：東日本を中心に上旬と下旬は前年よりかなり気温が高くなった

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2018年6月			2017年6月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	2.2	-2.2	0.7	-0.7	-0.9	0.1	2.9	-1.3	0.6
東北地方	2.1	-1.9	2.8	-1.0	-1.2	0.7	3.1	-0.7	2.1
関東甲信地方	1.7	-1.1	2.5	-0.2	-0.7	1.1	1.9	-0.4	1.4
北陸地方	1.2	-1.2	2.7	-1.5	-2.0	-0.1	2.7	0.8	2.8
東海地方	0.9	-0.3	1.6	-0.5	-0.4	0.0	1.4	0.1	1.6
近畿地方	0.5	-1.0	1.6	-0.9	-0.9	0.0	1.4	-0.1	1.6
中国地方	0.5	-1.2	1.5	-0.8	-1.0	0.1	1.3	-0.2	1.4
四国地方	0.3	-0.4	1.0	-0.1	-0.3	-0.3	0.4	-0.1	1.3
九州北部	1.0	-0.4	1.1	0.0	-0.4	0.1	1.0	0.0	1.0
九州南部・奄美地方	1.2	0.3	0.3	0.2	-1.3	-0.7	1.0	1.6	1.0

平年差
＋2℃以上　－2℃以上
＋1℃以上　－1℃以上

前年差
＋2℃以上　－2℃以上
＋1℃以上　－1℃以上

2.　6月日照時間の特徴：東日本太平洋側ではかなり多く、東・西日本日本海側で多かった

上旬：東日本太平洋側でかなり多く、北日本、東日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。□

中旬：北日本、東日本日本海側と沖縄・奄美で少なく、東日本太平洋側と西日本で平年並だった。□

下旬：東日本でかなり多く、北日本太平洋側、西日本で多かった。一方、北日本日本海側で少なかった。沖縄・奄美では平年並だった。□

2017年6月との比較：全国的に中旬はやや少なく、下旬は西日本を中心にやや多くなった

	日照時間　平年比（%）						今年と前年との差（%）		
	2018年6月			2017年6月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	127	62	65	73	136	83	54	-74	-18
東北地方	122	67	149	72	130	152	50	-63	-3
関東甲信地方	143	75	204	127	167	104	16	-92	100
北陸地方	115	79	179	97	149	157	18	-70	22
東海地方	126	94	160	144	190	78	-18	-96	82
近畿地方	105	84	157	135	173	88	-30	-89	69
中国地方	101	92	126	122	166	100	-21	-74	26
四国地方	92	94	136	142	161	47	-50	-67	89
九州北部	95	112	151	119	164	61	-24	-52	90
九州南部・奄美地方	89	92	119	153	115	49	-64	-23	70

平年差
平年比150%以上　平年比50%以下
平年比125%～149%　平年比51%～75%

前年差
＋50%以上　－50%以下
＋25～49%　－25～-49%

3.　6月降水量の特徴：北海道地方では、降水量がかなり多かった

上旬：北日本と東日本日本海側で少なく、東日本太平洋側、西日本と沖縄・奄美で平年並だった。□

中旬：北日本日本海側と沖縄・奄美でかなり多く、北・東日本太平洋側と西日本で多かった。東日本日本海側では平年並だった。□

下旬：北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側で多かった。一方、東日本で少なかった。□

2017年6月との比較：上旬は北日本でやや少なく、中旬は全国的に多く、下旬はやや少ない地域が多かった

	降水量　平年比（%）						今年と前年との差（%）		
	2018年6月			2017年6月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	88	282	299	368	64	280	-280	218	19
東北地方	36	98	93	254	35	58	-218	63	35
関東甲信地方	98	131	41	49	33	80	49	98	-39
北陸地方	29	97	54	168	4	49	-139	93	5
東海地方	150	151	64	56	2	143	94	149	-79
近畿地方	152	126	77	106	3	124	46	123	-47
中国地方	117	132	69	172	12	79	-55	120	-10
四国地方	107	162	71	89	48	142	18	114	-71
九州北部	90	137	88	50	32	81	40	105	7
九州南部・奄美地方	75	138	117	37	117	132	38	21	-15

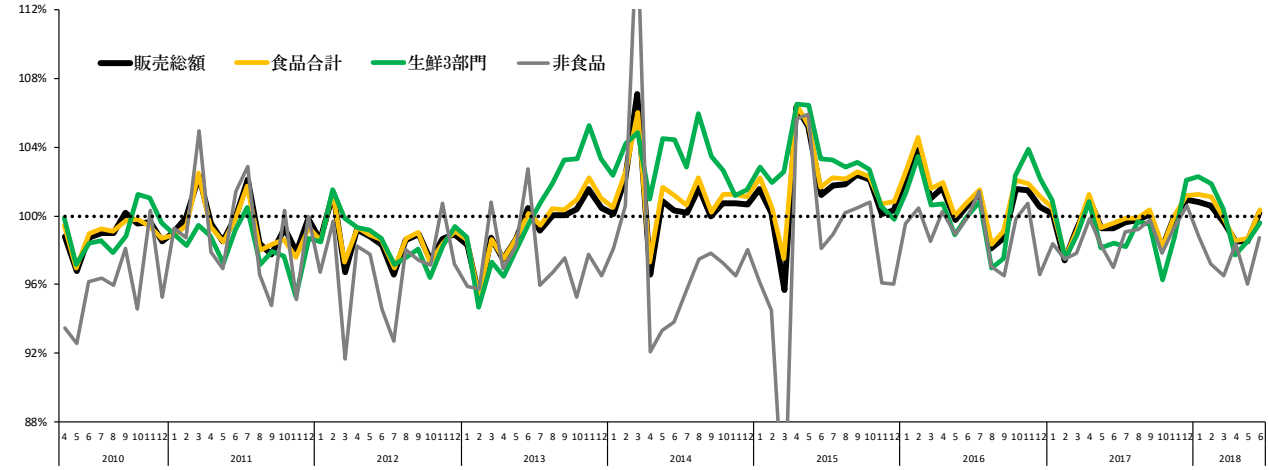
平年差
平年比150%以上　平年比50%以下
平年比125%～149%　平年比51%～75%

前年差
＋50%以上　－50%以下
＋25～49%　－25～-49%

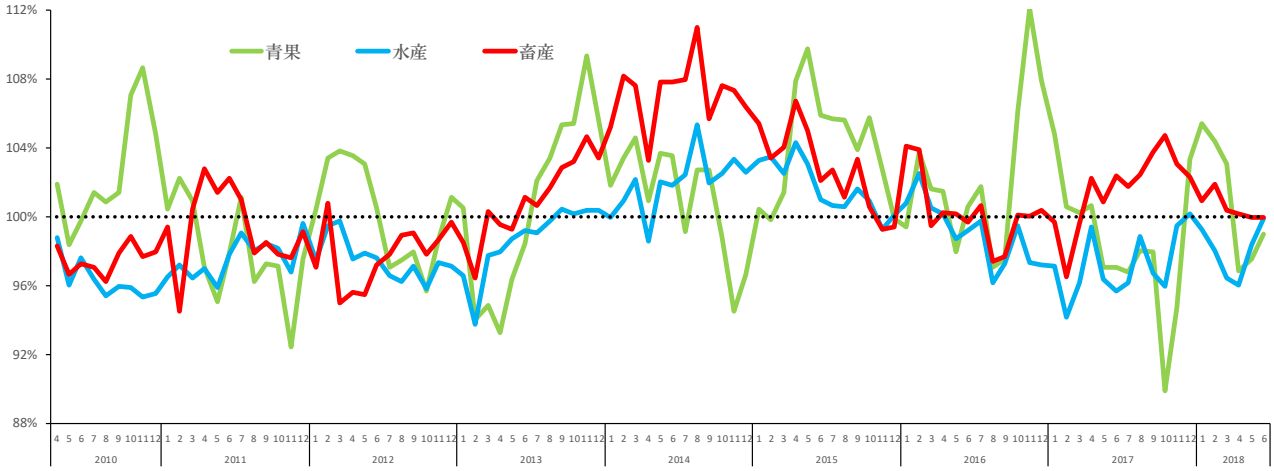
気象庁ホームページ・報道発表資料「6月の気候」参照
平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均
スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット販売統計（パネル270） 既存店前年同月比推移　2010年4月～

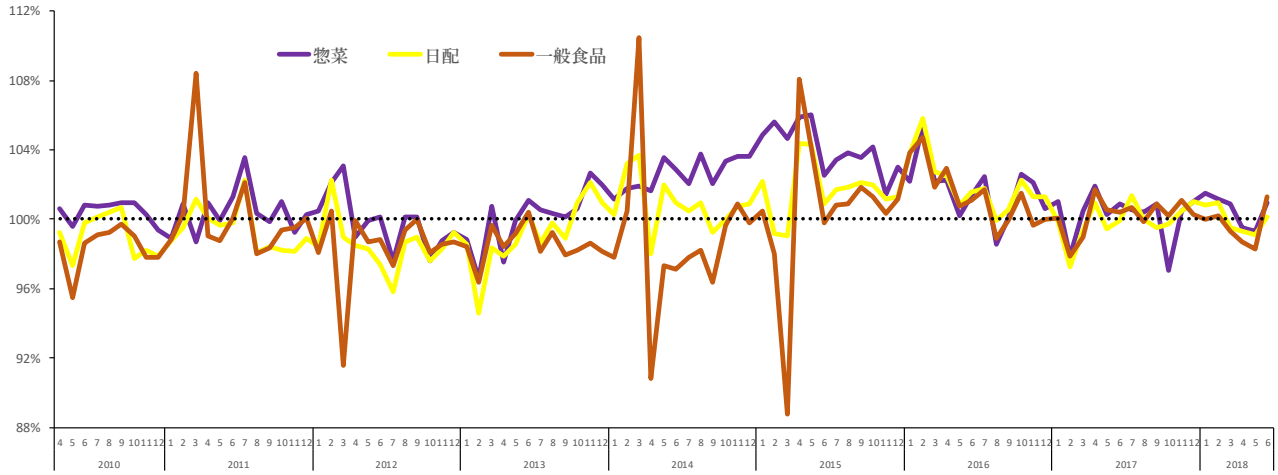
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2018年5月までは確報版による前年同月比、2018年6月は速報版による前年同月比

スーパーマーケット景気動向調査

2018 年 7 月調査結果（6 月実績）
(2018 年 7 月 20 日公表)

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について
- 前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの５段階で評価
- 前年同月を 100 とした当月の値を調査　※2014 年 4 月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、
- 前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの５段階で評価
- 各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI（Diffusion Index）の算出方法

回答構成比（%）に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善＋0.5・やや改善＋0.25・変わらない±0 ・やや悪化－0.25・かなり悪化－0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「0」

【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、
- ２～３ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで５段階で評価
- 今後２～３ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの５段階で評価

景況感 DI（Diffusion Index）の算出方法

回答構成比（%）に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善＋1.0・やや改善＋0.75・変わらない＋0.5 ・やや悪化＋0.25・かなり悪化＋0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「50」

一般社団法人　日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人　新日本スーパーマーケット協会

7 月調査（6 月実績）結果概況

景気判断 DI は現状・見通しともに大幅な改善

6 月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI 現状判断は前月から+3.8 の 45.6、見通し判断は前月から+4.1 の 44.2 となり、どちらも大幅な改善をみせた。

経営動向調査では、売上高 DI が-7.2、収益 DI は-7.3 と前月の二桁からマイナス幅を縮小した。食品仕入原価 DI と生鮮仕入原価 DI は共に小幅な上昇をみせ、客単価 DI が 4.9 とプラス圏に回復したことが売上 DI の改善につながった。一方で来客数 DI は-16.0 と二桁のマイナスとなり引き続き低迷している。カテゴリー動向調査では、土曜日が 1 日多い曜日巡りや気温上昇などを追い風に一般食品 DI が+8.1、日配 DI が+2.6 と上昇をみせた。また、前年からの相場の低下に苦しむ青果カテゴリーでも果物類が牽引し-7.2、アニサキス報道から 1 年が経過した水産 DI も-8.0 までマイナス幅を縮小した。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、現状判断、見通し判断ともに大きく改善をみせた。特にここ数か月で低下が著しかった中核店舗景気判断 DI や消費者購買意欲 DI に大きな改善がみられている。

今回の改善は、青果相場安や水産の不振から 1 年が経過し悪材料出尽くし感が背景にあるとみられる。土曜日が 1 日多い恩恵に対し、週末用の商材を訴求し成果をあげ客単価を上昇させたこともマインドの下支えとなった。一方で客数減には歯止めがかかっておらず、有効な対策への取り組みが求められる状況であることに変わりはない。今回の反転が持続的な回復に結び付くか次月以降の動向を注視したい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域　景気判断DI
当月：４５．６（＋３．８）	当月：４５．５（＋３．２）	当月：４１．０（＋０．９）	当月：４７．０（＋１．５）
前月：４１．８	前月：４２．３	前月：４０．１	前月：４５．５

見通し判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域　景気判断DI
当月：４４．２（＋４．１）	当月：４４．７（＋２．３）	当月：４０．７（＋２．１）	当月：４６．６（＋１．４）
前月：４０．１	前月：４２．４	前月：３８．６	前月：４５．２

経営動向調査　経営状況

売上高DI	客単価DI	来客数DI
当月：－７．２（＋９．７）	当月：４．９（＋４．８）	当月：－１６．０（＋２．３）
前月：－１６．９	前月：０．１	前月：－１８．３

収益DI	販売価格DI	生鮮品仕入原価DI	食品仕入原価DI
当月：－７．３（＋２．８）	当月：０．０（＋２．３）	当月：３．０（＋２．２）	当月：６．１（＋２．９）
前月：－１０．１	前月：－２．３	前月：０．８	前月：３．２

カテゴリー動向

青果DI	水産DI	畜産DI
当月：－７．２（＋７．４）	当月：－８．０（＋５．３）	当月：－３．６（－１．１）
前月：－１４．６	前月：－１３．３	前月：－２．５

惣菜DI	日配DI	一般食品DI	非食品DI
当月：－０．８（＋３．５）	当月：－６．１（＋２．６）	当月：－２．２（＋８．１）	当月：－１０．２（＋３．９）
前月：－４．３	前月：－８．７	前月：－１０．３	前月：－１４．１

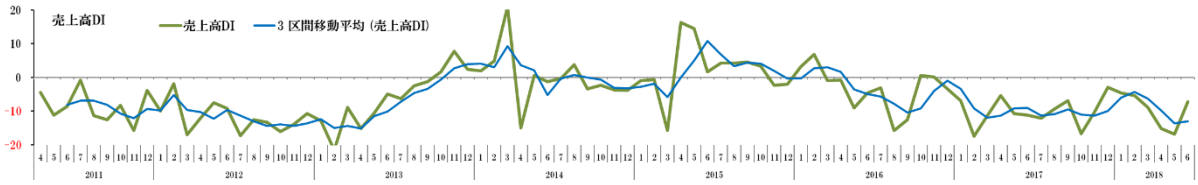
（）内は前月 DI との増減、赤字はマイナス

7 月調査（6 月実績）結果詳細　Ⅰ．経営動向調査（2011 年 4 月～）

1.　売上高 DI

5 ヵ月連続低下から反転上昇をみせる

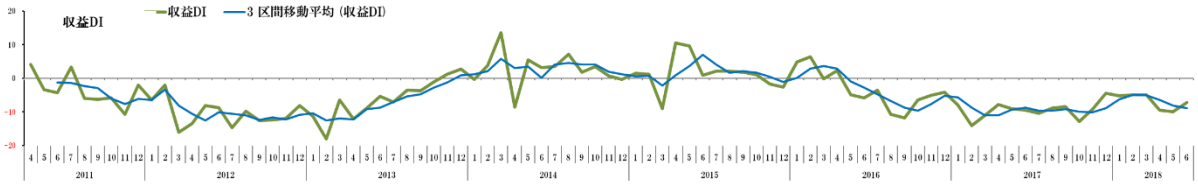
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	16.5	47.0	25.0	10.5	1.0	-16.9
売上高（当月）	**10.3**	**34.5**	**29.9**	**24.2**	**1.0**	**-7.2**



2.　収益 DI

低迷が続くなか、小幅に上昇をみせる

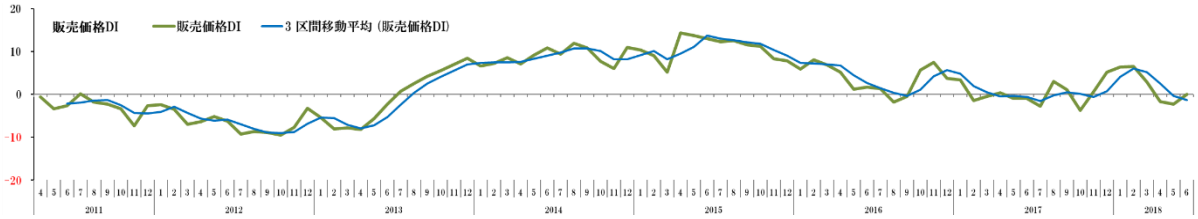
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	10.3	39.7	32.0	16.0	2.1	-10.1
収益（当月）	**8.3**	**37.5**	**31.3**	**20.8**	**2.1**	**-7.3**



3.　販売価格 DI

わずかに上昇し、マイナス幅を縮める

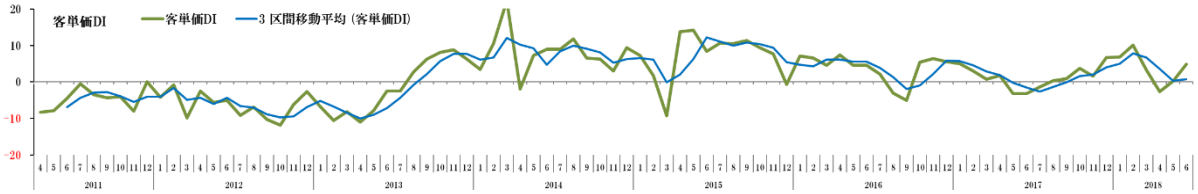
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	20.7	67.7	11.6	0.0	-2.3
販売価格（当月）	**0.5**	**17.9**	**62.8**	**18.9**	**0.0**	**0.0**



4.　客単価 DI

反転上昇し、プラス圏を回復

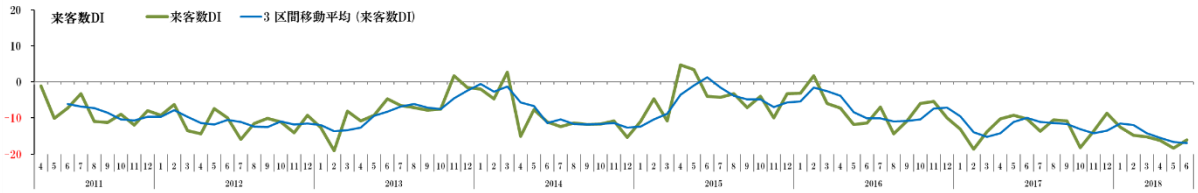
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.5	23.7	47.5	27.3	0.0	0.1
客単価（当月）	**1.0**	**16.4**	**45.1**	**36.9**	**0.5**	**4.9**



5.　来客数 DI

二桁マイナス水準が継続し、反転の兆しみられず

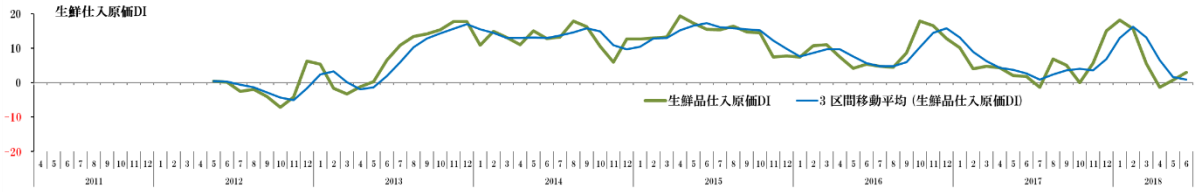
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数（前月）	14.6	51.0	27.8	6.1	0.5	-18.3
来客数（当月）	**13.3**	**47.7**	**29.2**	**9.2**	**0.5**	**-16.0**



6.　生鮮仕入原価 DI

わずかに上昇し、プラス圏を継続

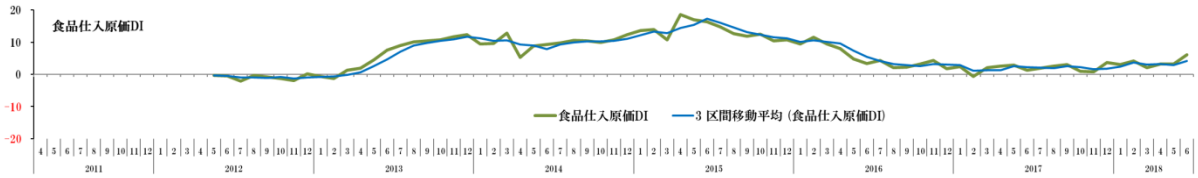
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価（前月）	2.1	19.5	54.4	21.5	2.6	0.8
生鮮仕入原価（当月）	**1.0**	**16.2**	**55.0**	**25.1**	**2.6**	**3.0**



7.　食品仕入原価 DI

わずかに上昇し、プラス幅をやや拡大

回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価（前月）	2.0	9.7	62.8	24.5	1.0	3.2
食品仕入原価（当月）	**2.1**	**4.2**	**63.0**	**28.6**	**2.1**	**6.1**

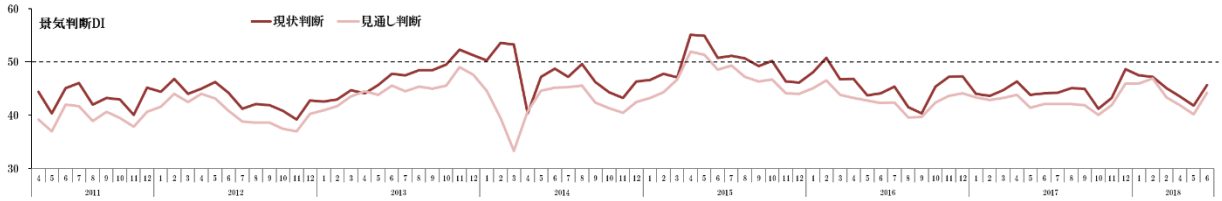


Ⅱ．景況感調査（2011 年 4 月～／周辺地域景気判断のみ 2010 年 4 月～）

1．　中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に大きく改善

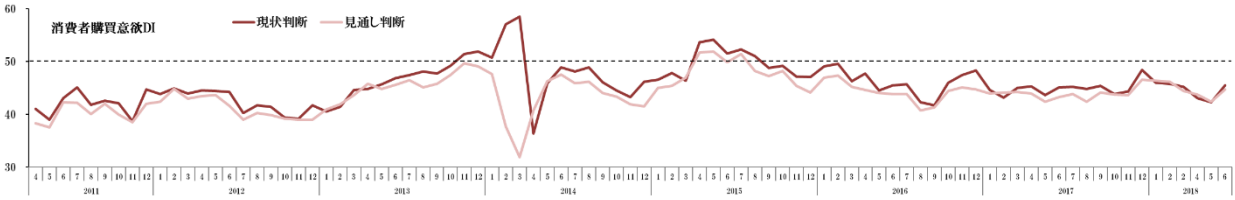
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	4.0	30.0	61.0	5.0	0.0	41.8
【現状】景気判断（当月）	**2.1**	**24.1**	**63.6**	**9.7**	**0.5**	**45.6**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	5.0	35.0	54.5	5.5	0.0	40.1
【見通し】景気判断（当月）	**2.1**	**28.4**	**60.3**	**9.3**	**0.0**	**44.2**



2．　消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に大きく改善

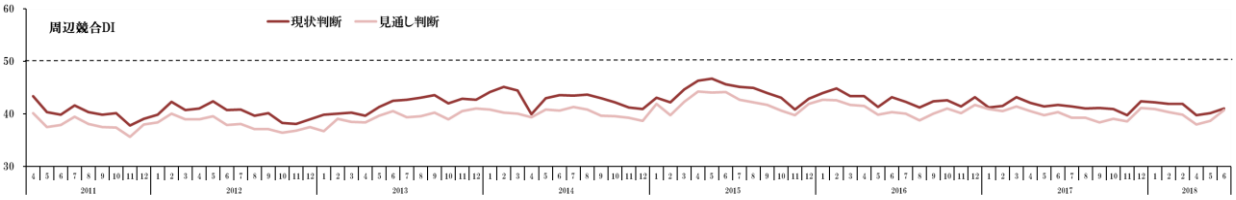
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	1.0	32.5	63.0	3.5	0.0	42.3
【現状】購買意欲（当月）	**0.0**	**27.8**	**62.4**	**9.8**	**0.0**	**45.5**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	1.0	31.5	64.5	3.0	0.0	42.4
【見通し】購買意欲（当月）	**0.0**	**27.5**	**66.3**	**6.2**	**0.0**	**44.7**



3．　中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共にやや改善も、低位横ばい推移が続く

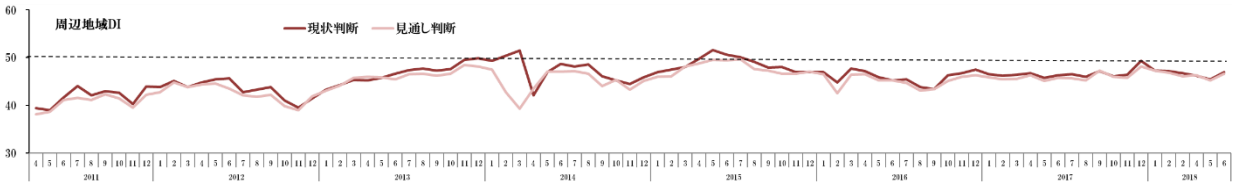
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	4.0	33.5	60.5	2.0	0.0	40.1
【現状】競合状況（当月）	**4.1**	**30.8**	**62.6**	**2.1**	**0.5**	**41.0**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	6.5	33.5	59.0	1.0	0.0	38.6
【見通し】競合状況（当月）	**4.6**	**30.4**	**62.4**	**2.6**	**0.0**	**40.7**



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

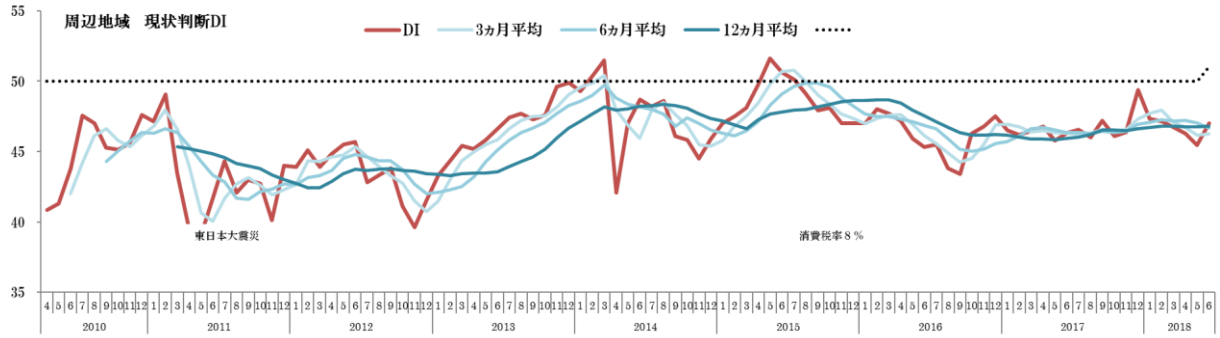
小幅に改善し、高水準を維持

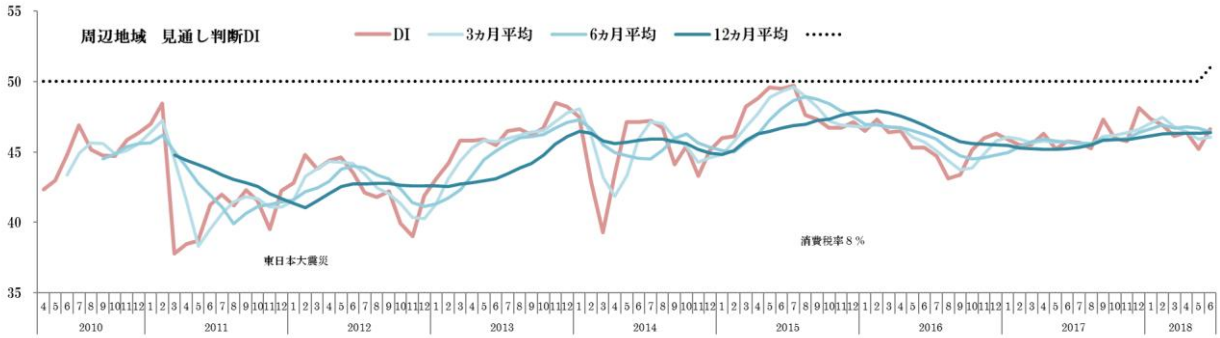
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気（前月）	1.0	17.2	80.8	1.0	0.0	45.5
【現状】地域景気（当月）	**0.0**	**15.0**	**81.9**	**3.1**	**0.0**	**47.0**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気（前月）	1.0	18.7	78.8	1.5	0.0	45.2
【見通し】地域景気（当月）	**0.0**	**16.7**	**80.2**	**3.1**	**0.0**	**46.6**



※長期傾向（2010 年 4 月～）

11 年 3 月の東日本大震災後低迷を続けていた DI は、12 年 11 月から 16 ヵ月にわたり改善が続き、14 年 3 月には現状判断 DI が 51.5 を記録した。14 年 4 月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持直しをみせ、2015 年 5 月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断 DI は 51.6 にまで達した。しかしこれをピークとし、その後 15 ヵ月にわたり悪化傾向が続き 16 年 9 月には、現状判断 DI は 43.4 まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18 年に入り悪化傾向が続き、5 月には移動線付近を下回る水準まで低下したが、6 月には一転して改善をみせている。

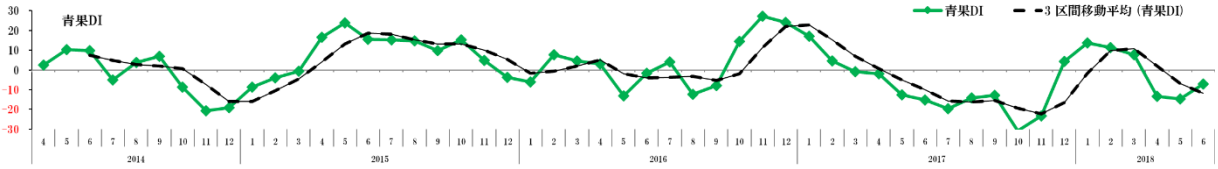




Ⅲ.カテゴリー別動向

1.　青果 DI：-7.2（やや不調）

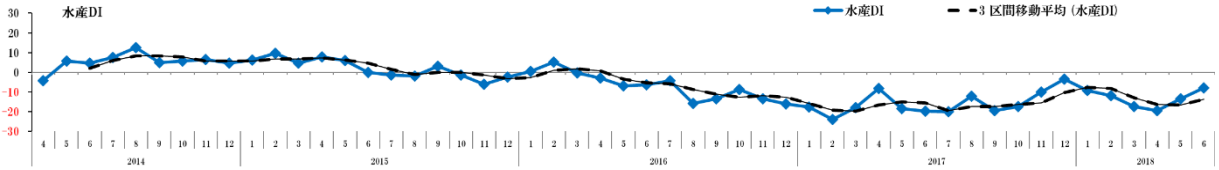
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	14.7	45.3	25.3	13.2	1.6	-14.6
青果（当月）	**7.4**	**37.8**	**32.4**	**20.7**	**1.6**	**-7.2**



野菜相場は引き続き前年より安値で推移しており、特にジャガイモや玉ねぎは下落幅が大きく、一品単価は厳しい状況となっておりやや不調であった。気温上昇によりトマトやキュウリなどサラダ商材は点数増となり好調となった。果物類は、前年より出荷時期が前倒しになっているものが多く、スイカやメロンなどのカットフルーツ、さくらんぼが好調となった。輸入果物ではキウイフルーツを好調にあげる店舗が多かった。

2.　水産 DI：-8.0（やや不調）

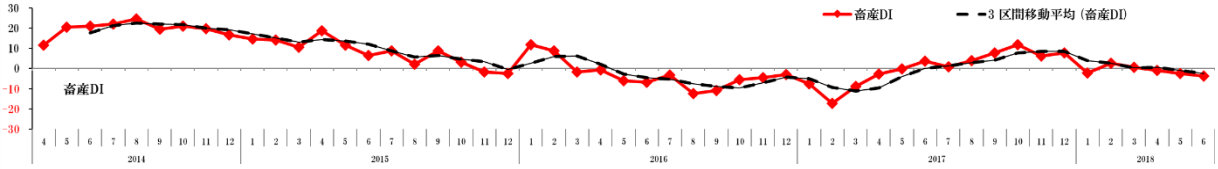
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	14.2	42.1	29.5	11.1	3.2	-13.3
水産（当月）	**13.3**	**31.9**	**31.4**	**20.2**	**3.2**	**-8.0**



アニサキス報道から１年が経過したことで前年比では下げ止まりもみられたが、生カツオの不振が続くなか、例年より多いアニサキスの影響を考慮して、冷凍を使ったタタキなどに販売方法を変更する店舗が多くみられた。マグロなど刺身類、相場の安定したエビ類、気温の上昇とともに海藻類が好調となった。前年好調だったうなぎは、相場が高騰しており苦戦している。

3.　畜産 DI：-3.6（やや不調）

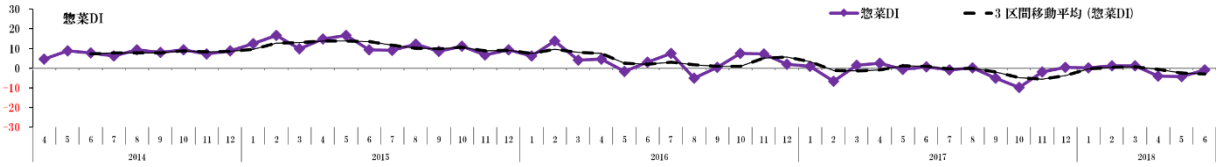
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	5.3	30.9	37.8	20.7	5.3	-2.5
畜産（当月）	**7.0**	**29.0**	**38.2**	**23.1**	**2.7**	**-3.6**



牛肉では土曜日が一日多い曜日巡りにより、週末向けに黒毛和牛などブランド牛や輸入牛を中心とした大容量商品が共に動きがよかった。相場の高めに推移している豚肉は、気温の上昇により冷しゃぶ用が好調なった。鶏肉はサラダチキン用が好調を牽引しているものの、単価の下落により伸び悩んだ店舗もみられた。ハムやソーセージなどの加工肉は不調とする店舗が多い。

4.　惣菜 DI：-0.8（やや不調）

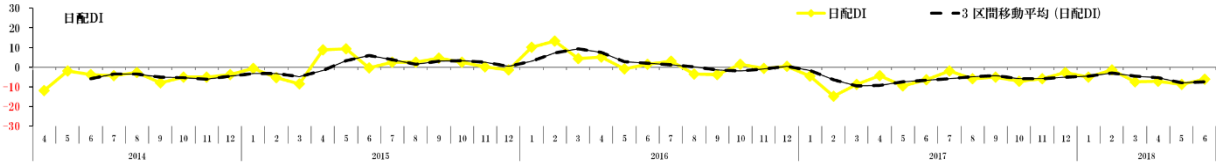
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	5.9	30.3	42.0	18.6	3.2	-4.3
惣菜（当月）	**6.5**	**23.8**	**41.1**	**23.8**	**4.9**	**-0.8**



土曜日が一日多い曜日巡りの恩恵や、前年アニサキス報道からの反動で寿司類が持ち直したことが追い風になった。サラダ関連の動きがよかったものの、一方で揚げ物は苦戦した。前年との気温差が大きかった地域では涼味惣菜が好調となった。米飯類は好不調まちまちの結果となった。コンビニエンスストアとの競合を指摘するコメントが多くみられた。

5.　日配 DI：-6.1（やや不調）

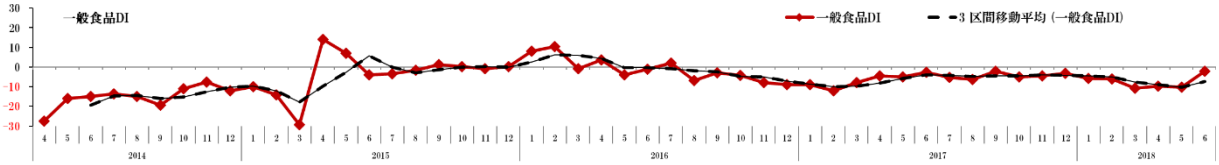
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	7.4	36.5	42.3	11.1	2.6	-8.7
日配（当月）	**6.9**	**31.7**	**42.3**	**16.9**	**2.1**	**-6.1**



特に下旬にかけて、前年より気温が高い地域では、アイス、飲料など涼味系商品の動きがよかった。健康報道に加え、価格上昇の納豆に加え、梅干しも特需となっている店舗が多い。気温の上昇によりパン類は動きが悪かった。牛乳やヨーグルトは好不調まちまちの判断となっているが、チーズやバターは好調とする店舗が多い。甘酒には前年特需からの反動もみられている。ドラッグストアとの競合を指摘するコメントもみられた。

6.　一般食品：－2.2（やや不調）

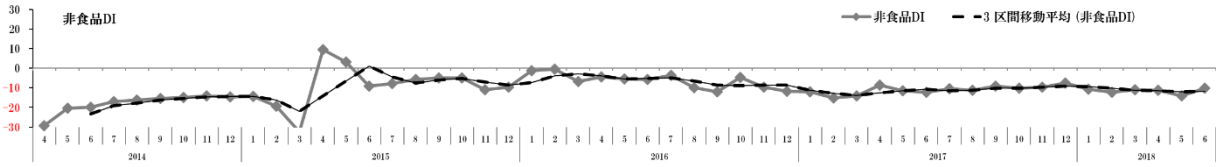
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	7.3	40.3	40.3	10.5	1.6	-10.3
一般食品（当月）	**5.9**	**24.7**	**42.5**	**25.8**	**1.1**	**-2.2**



地域により前年との気温差で異なる結果となったが、前年より気温が上昇地域では、飲料や涼味関連商材の動きがよかった。米類は単価が上昇しており引き続き好調となっている。前年じゃがいも不足で品薄となりチャンスロスがあった菓子カテゴリーも好調となった。調理酢やオリーブオイルが好調なった店舗もみられた。種類は、前年酒税法改正前の駆け込みの反動が大きかった店舗では回復をみせた。防災意識の高まりによりインスタント麺など備蓄用食材に特需があった店舗もみられた。

7.　非食品 DI：-10.2（不調）

回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	16.2	36.8	36.8	7.6	2.7	-14.1
非食品（当月）	**12.6**	**31.7**	**40.4**	**14.8**	**0.5**	**-10.2**



気温上昇とともに、防虫剤や制汗剤、日焼け止めなど夏物商材の動きがよくなったが、タバコの落ち込みが続いているほか、ホームセンターやドラッグストアなどとの価格競争の影響を大きく、売場を縮小している店舗もみられ、全体的に伸び悩みをみせた。

<u>カテゴリー別 DI による好不調判断</u>

かなり好調：　～ 20　　好調：　20 ～ 10　　やや好調：10 ～ 0
やや不調　：　0 ～ -10　　不調：-10 ～-20　　かなり不調：　-20～

2018 年 7 月調査（6 月実績）キーワード TOP3

1. **土曜日が 1 日多い**
2. **天候要因（気温上昇、例年より早い梅雨明け）**
3. **来客数減**

スーパーマーケット景気動向調査　集計数

6 月実績速報版　196 社
5 月実績確報版　200 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局　tokei@super.or.jp